

山行報告書

報告書作成

2006年5月9日

山名 [山域]	阿蘇山・白鳥山・天主山	目的と方法	花観賞
登山期間	2006年5月6日(土)～8日(月)	山行形態	日帰り ピストン
参加人数	4名		

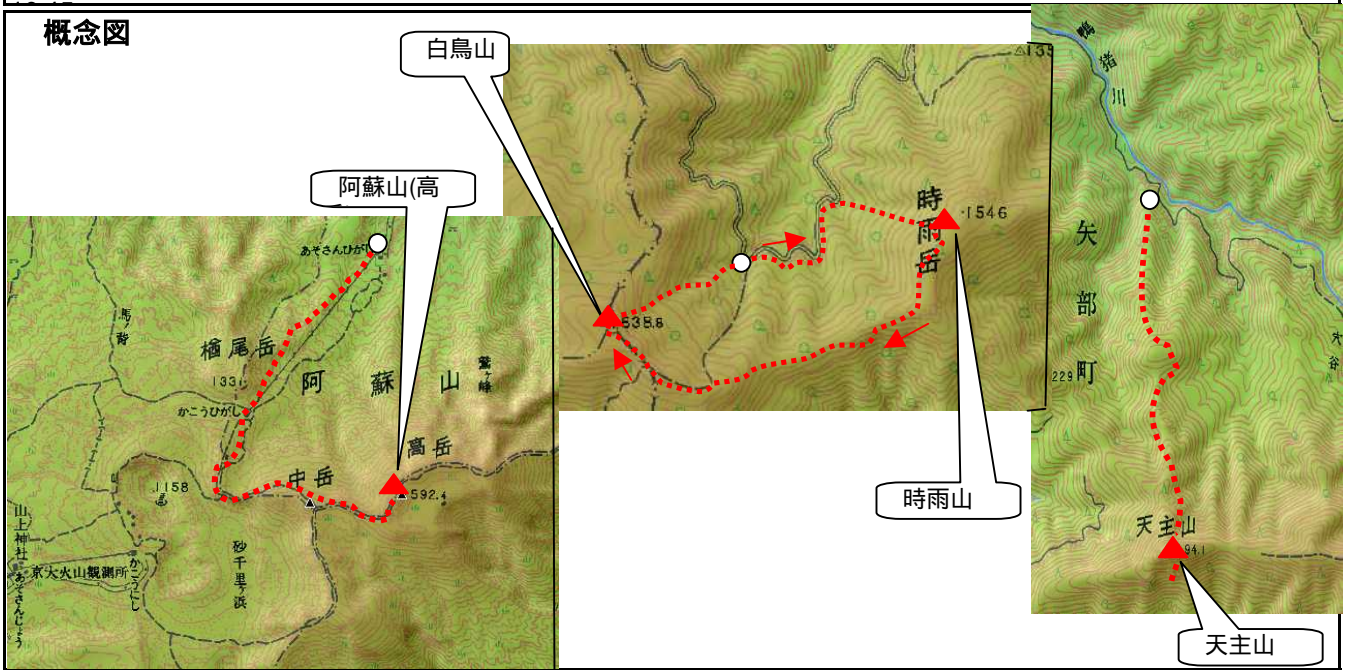
行動記録

5/5(金) 名古屋バスターミナル20:00 == 5/6(土) 熊本交通センター8:00・レンタカー==阿蘇仙酔峡登山口(9:30、10:00)---中岳山頂(11:20)---高岳山頂(11:40)--中岳--火口東展望台(12:30、13:00)--登山口(13:25) == 坊中温泉(夢の湯) = R265 = 上椎葉ダム公園(18:30)泊

5/7(日) (5:00起床)6:30発 == 御三池登山口(7:50、8:10)--(時雨岳登山口)-時雨岳(9:30、10:30)--白鳥山頂上(12:15)--登山口(13:10) == 国民宿舎通潤山荘(温泉&夕食) == 鴨猪川林道 == 天主山登山口(18:50)泊

5/8(月) (4:00起床)5:00発--1194ピーク(6:15)--天主山(7:45)--お花群生地(8:15、9:30)--天主山(11:40)--1194ピーク--天主山登山口(11:40、12:00) == 国民宿舎通潤山荘(温泉) == 15:00熊本空港 熊本空港18:30 >> 中部

概念図



日誌

5/6(土) 名古屋より11時間以上もかけての夜行バスの疲れも 皆感じず熊本に早到着。天候曇り、阿蘇山に向かったの車中の天気予報は 強風・午後は雨と スタートにして芳しくない。登山口では咲きそろったミヤマキリシマに迎えられる。風のためロープウェイは休止。予定の仙酔尾根コースから安全なロープウェイに添ったコースをピストンに変更。登るにつれ 阿蘇特有の雄大な噴煙を上げる火口は迫力ある。強風の中溶岩でゴツゴツしたりガレたりと足場の悪い登山道を中岳・高岳のピークを踏むと 休憩なく安心できる展望台まで戻る。下山後すぐに雨となった。雨の中テント設営。きれいなトイレあり。

5/7(日) 雨は一晩中降り続けた。予定よりも遅めの出発。雨の中荒れた林道登山口へ。途中何度か悪路の為運転者以外は 下車して歩く。御三池登山口は かつては 立派な駐車場として整備されていたようだが、何年か前の台風の影響で駐車場に入れない程崩壊している。道路側に駐車。小雨ながらも雨具着用で 枯れた沢をつめる。ワチガイソウ・キケマン・イチリンソウ・ニンソウ・ルイヨウボタン・コガネコノメ・ハナコノメ・ヤマシャクヤクと豊富なお花に一時間もすれば 時雨岳頂上へ。雨はすっかり上がり、しっとりとした水の玉が花々を潤し気品さえ感じられた。頂上とは思えないなだらかな広場がお花で広がり、たっぷりのお花見タイム。登山者は我々以外は4人のみ。時雨岳からは 下山まで貸し切り状態で国有林中の 深山の 春の緑と余白の青空を楽しみながら登山口へと周回。鴨猪川林道の悪路を何とか日没までに走り終える。

5/8(月) 天候・晴れ。ヘッドランプを着けての登山開始。ブナ・アカガシ等の巨樹の緑の森・早朝から小鳥の囀りが 響く。筒鳥・アカショウビン・ウグイス等。ヤマウツボ・ギンリョウソウなどの腐生植物 ・ミツバツツジは満開・ヒトリシズカ・ヤマエンゴサク・ヤマブキソウ・ハルリンドウ・ヤナシャクヤク等が 露出した石灰岩と 美しく融合している。鈴鹿の風情を想起させ、芦生の森のような 原生林が九州にも息づいている。

感想

偶然にも昨年 北海道お花見山行の4人のメンバー。CL以外は 今回の山名は阿蘇山以外は知らぬマイナーな山だったが 予想に反して 北海道の山に劣らず 生涯忘れられぬ思い出の花の山となった。花の命は短くて 最高の時期に出合えるという幸運に恵まれた事、地元の親切な方に 穴場を教えて頂くというチャンスに恵まれた事 お花見に最高の天候と しっかりとお花の神様に導かれた幸福感に 浸っている。